

日本の地域別将来推計人口 (令和5年推計)の概要(北海道)

1. ポイント・概要
2. 関連データ

1. ポイント・概要

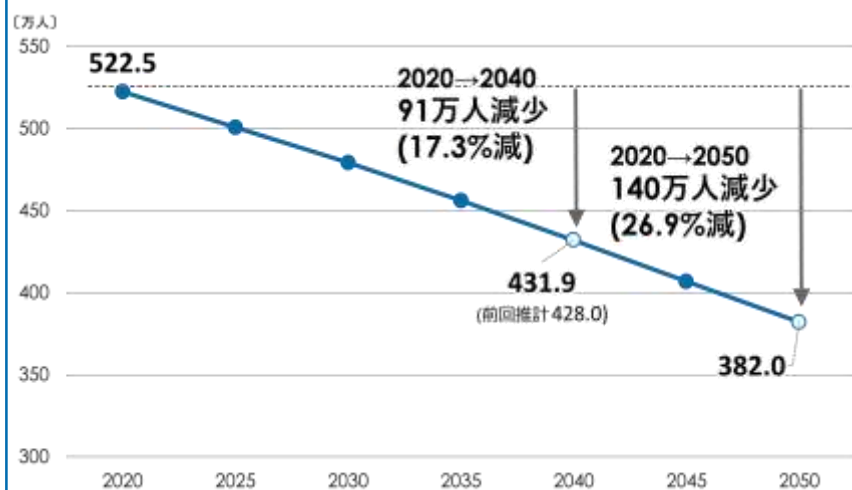
令和5年地域別将来推計人口（社人研）のポイント・概要

1. 地域別将来推計人口のポイント

- 30年後（2050年）の北海道の総人口は、約27%減の382万人と推計されている。
- 前回推計（平成30年推計人口）と比べ、減少傾向はやや鈍化しており、2040年の推計値は4万人の増加（428万人→432万人）となっている。
- 前回推計との違いは、平均寿命の延伸や外国人の入国超過増などにより全国推計において、総人口の減少率が前回推計より緩和されたことや、近年の人口移動の状況を反映するなど推計の仮定が変更となったことが要因と考えられる。
- 2050年には道内全ての市町村で人口が減少し、減少率が50%以上の市町村数は67、人口規模が5千人未満となる市町村数は122となるとされている。
- ニセコ町や東川町など、現行の人口の80%以上を維持できる見込の自治体がある一方、歌志内市や夕張市のように70%以上減少すると見込まれる自治体もある。

2. 関連データ抜粋

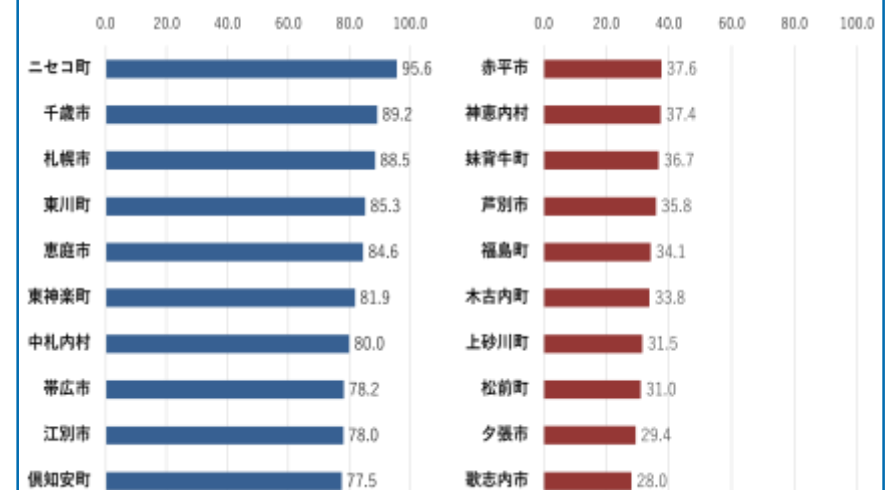
◆ 総人口の推移（北海道）



◆ 人口減少率別の市町村数

分類 (対2020年比)	2050年	
	令和32年	
	市町村数	割合
100%超	1	0.5%
90~100	6	3.2%
80~90	5	2.7%
70~80	24	12.8%
60~70	23	12.2%
60以下	129	68.6%
50以下	67	35.6%
全体	188	100.0%

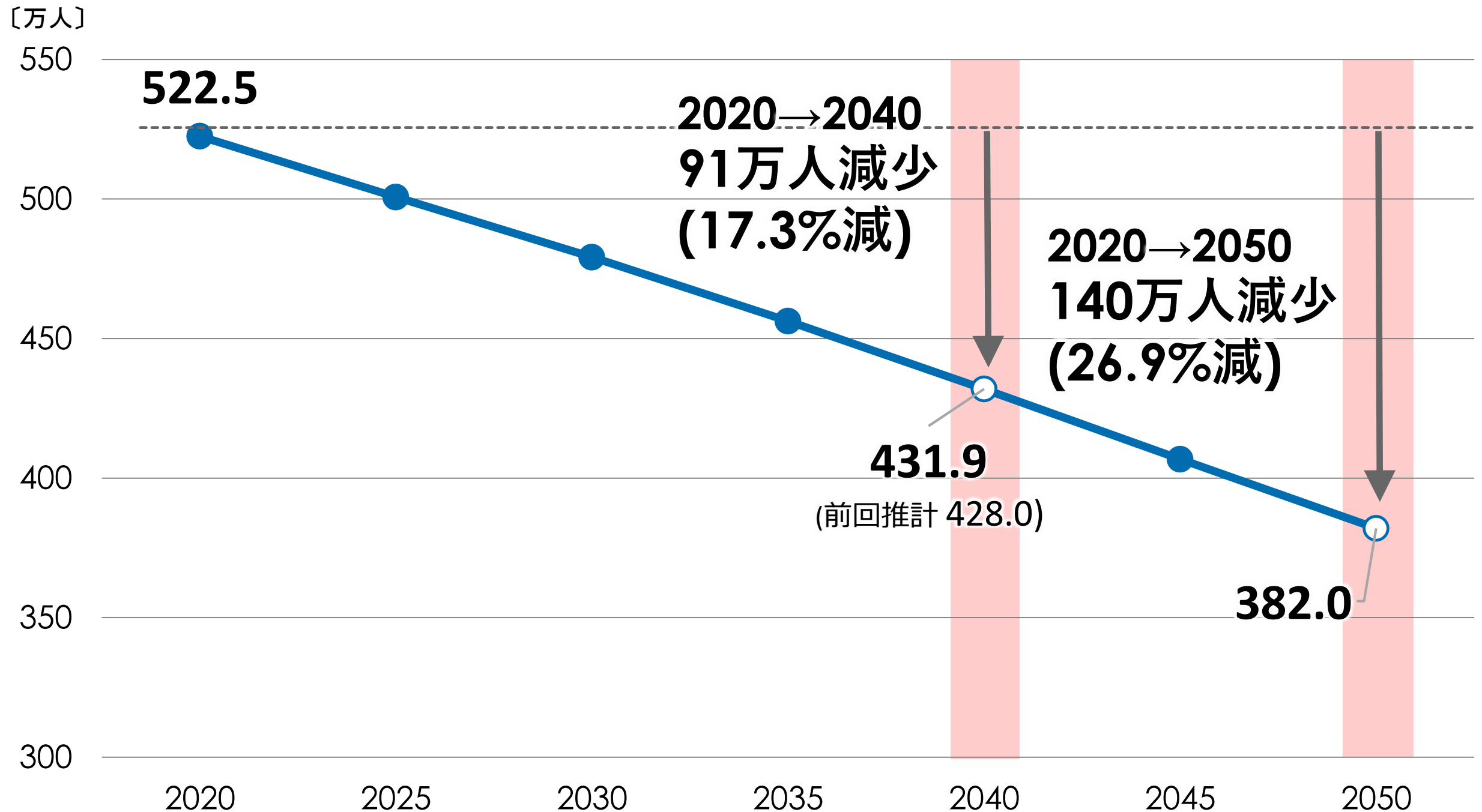
◆ 2020年を100とした場合の2050年の総人口（上位・下位10市町村）



2. 関連データ

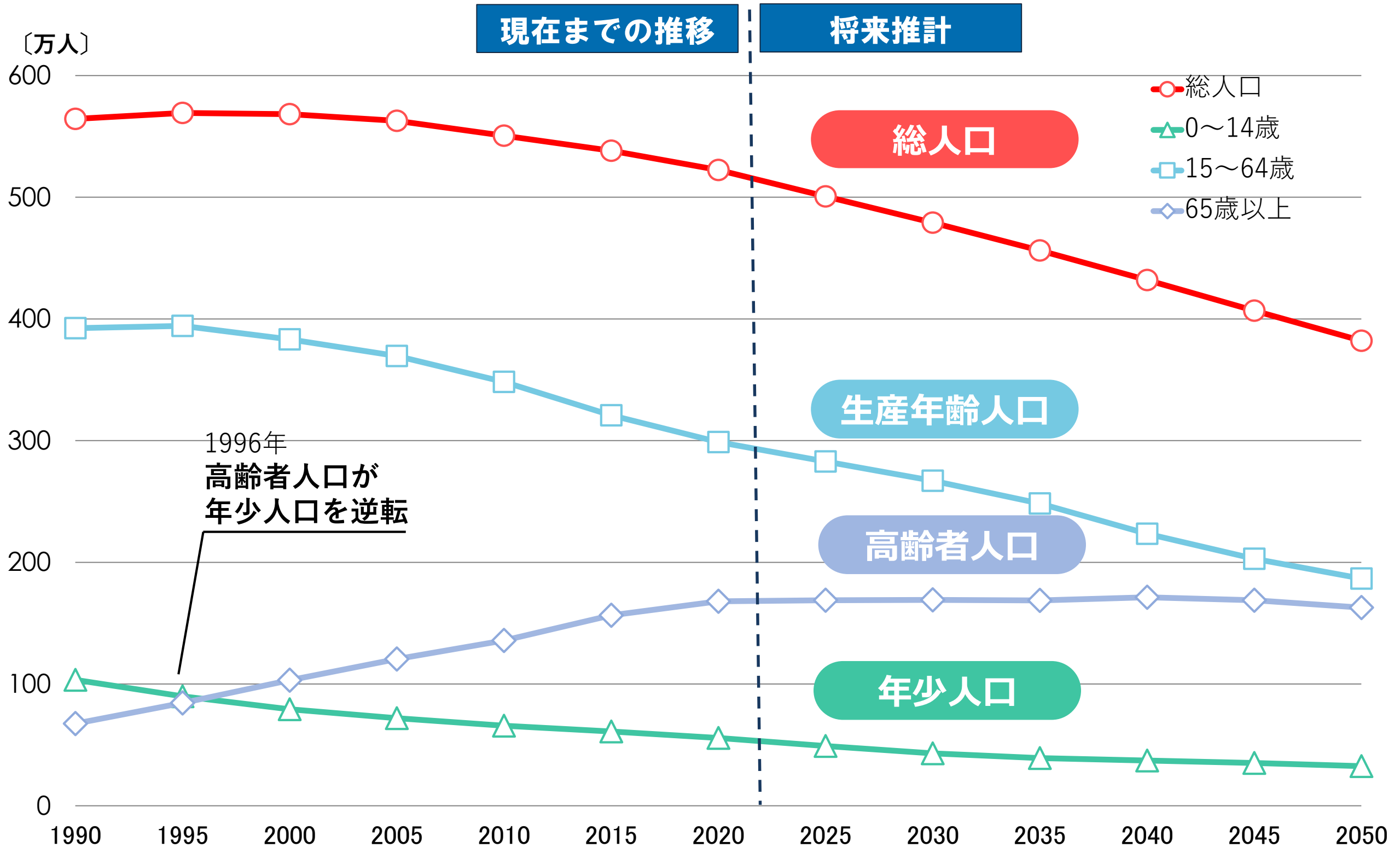
総人口の推計

- 平均寿命の延伸や外国人の入国超過増などにより全国推計においても前回推計より人口減少が緩和されたことや、近年の人口移動の状況などから地域別の将来推計においても前回推計よりは減少傾向はやや鈍化している。



年齢3区分別人口の推計（北海道）

● 高齢者人口も2040年以降減少し始めることが見込まれるが、生産年齢人口が大幅に減少していくことから、2050年にはその差が25万人程度になるとされている。



年齢3区分別人口割合の将来推計（全国・北海道）

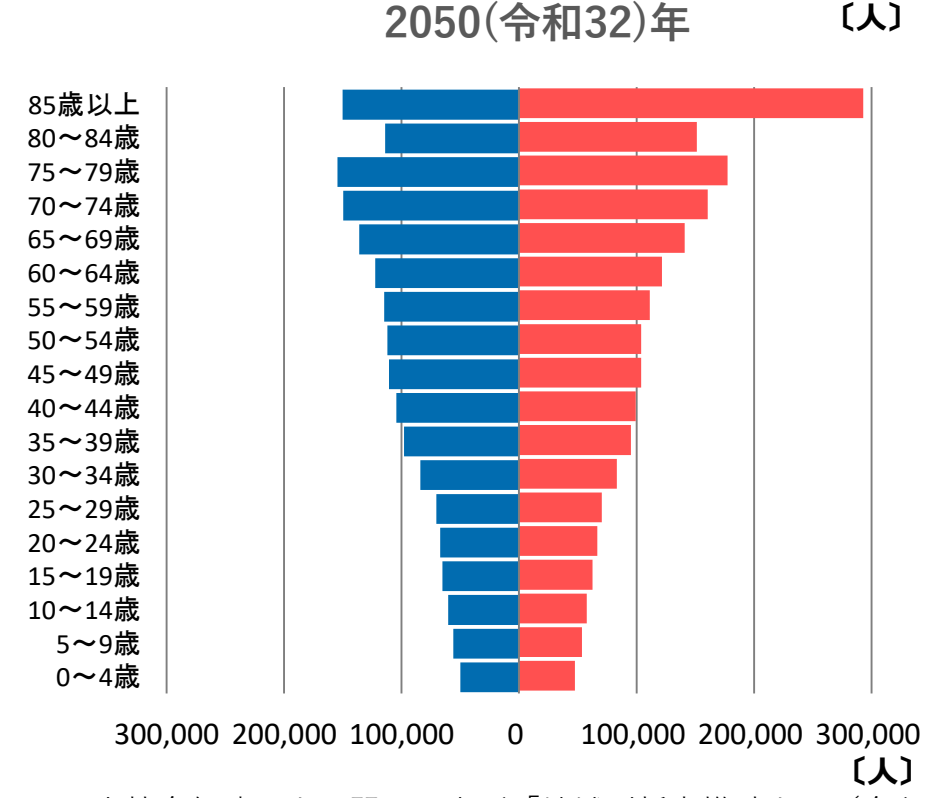
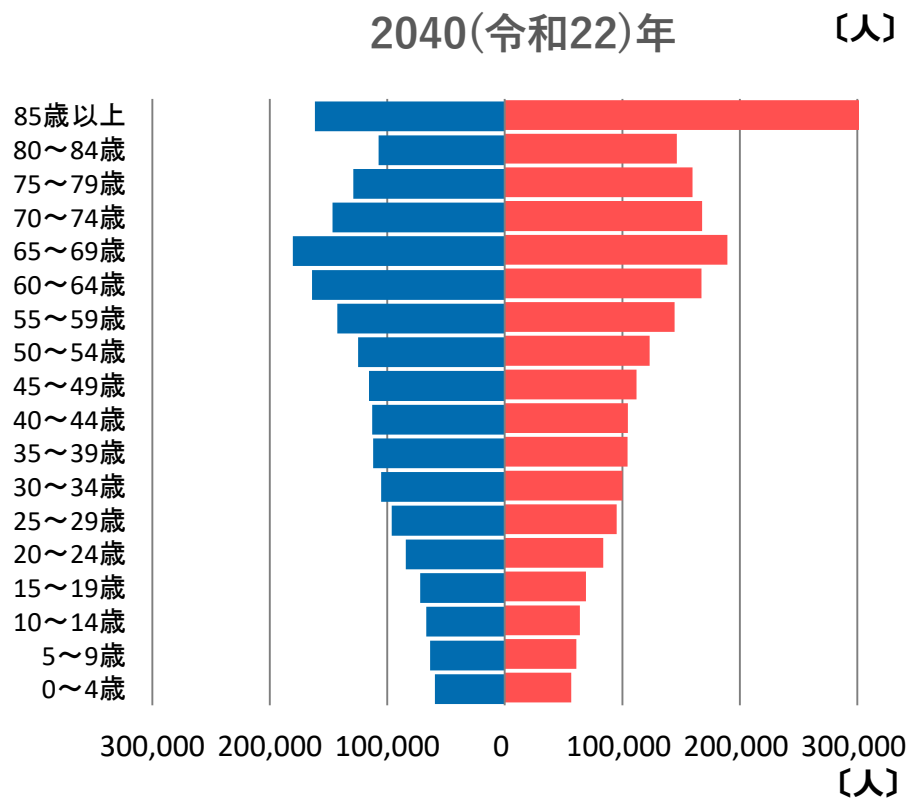
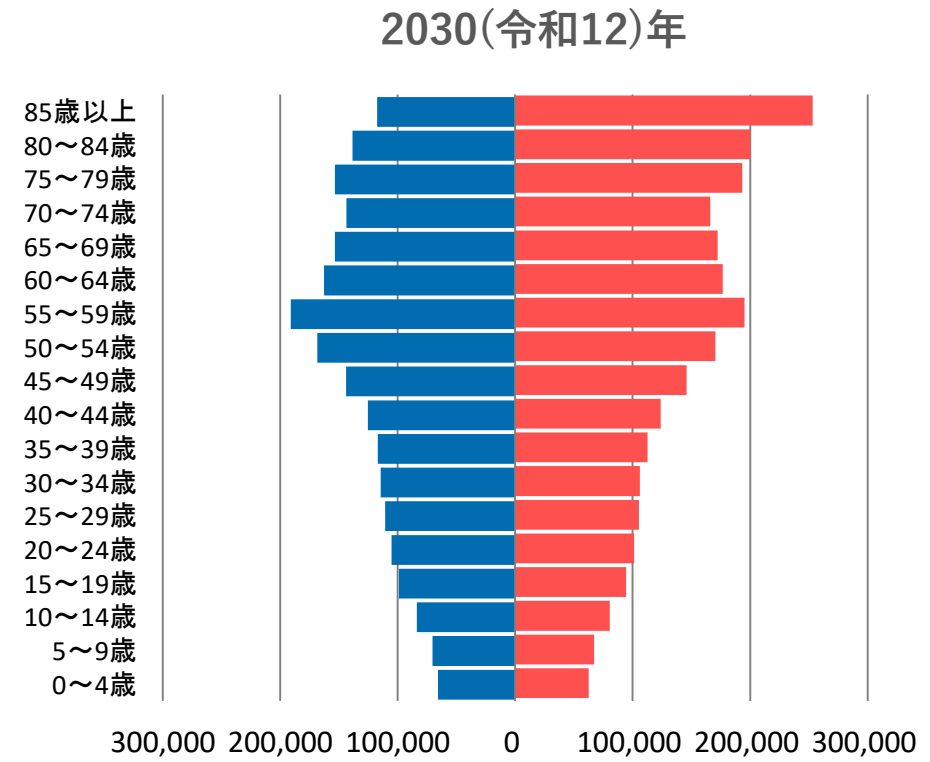
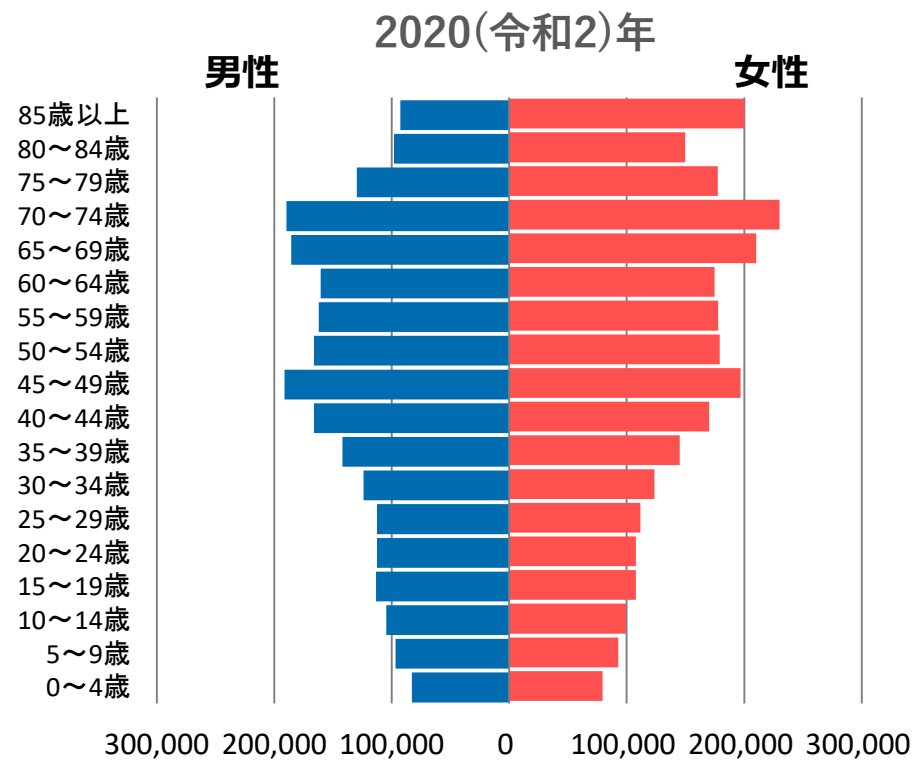
- 生産年齢人口割合及び年少人口割合は減少、高齢者人口割合は増加するとされている。全国との比較では、生産年齢人口割合と高齢者人口割合で差が拡大している。

		2020年 (令和2年)	2030年 (令和12年)	2040年 (令和22年)	2050年 (令和32年)
年少人口 (0～14歳)	全 国	11.9	10.3	10.1	9.9
	北海道	10.7	9.8	8.6	8.5
生産年齢人口 (15～64歳)	全 国	59.5	58.9	55.1	52.9
	北海道	57.2	56.5	51.7	48.9
高齢者人口 (65歳以上)	全 国	28.6	30.8	34.8	37.1
	北海道	32.1	33.7	39.7	42.6

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）※出生中位、死亡中位」、「地域別将来推計人口（令和5年推計）」

男女・年齢別人口（人口ピラミッド）の将来推計（北海道）

● 年少人口は現状よりさらに減少し、人口規模の大きい世代が後期高齢期に入っていくが、2050年には高齢者人口も減少していくとされている。



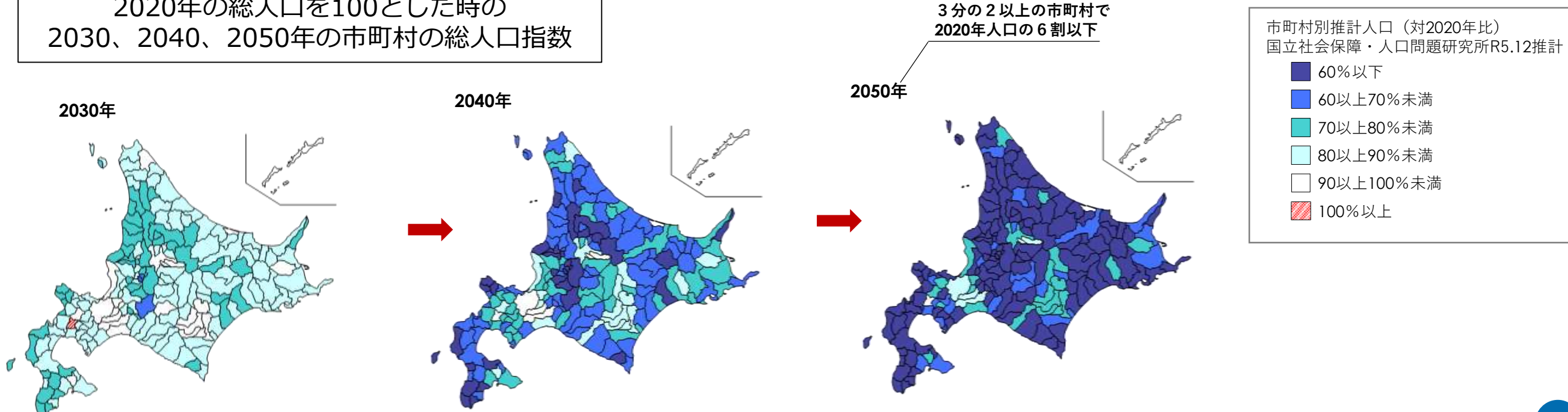
人口減少率（対2020年）別の市町村数の推移

● 国による推計を市町村別にみると、2050年には全市町村の3分の2以上の129市町村で人口が現在の6割以下となり、そのうち67市町村で5割以下になると見込まれている。

分類 (対2020年比)	2030年 令和12年		2040年 令和22年		2050年 令和32年	
	市町村数	割合	市町村数	割合	市町村数	割合
	100%超	2	1.0%	1	0.5%	1
90~100	30	16.0%	11	5.9%	6	3.2%
80~90	104	55.3%	21	11.2%	5	2.7%
70~80	49	26.1%	45	23.9%	24	12.8%
60~70	3	1.6%	76	40.4%	23	12.2%
60以下	0	0.0%	34	18.1%	129	68.6%
50以下	0	0.0%	4	2.1%	67	35.6%
全体	188	100.0%	188	100.0%	188	100.0%

注) 北海道は179市町村で構成されているが、札幌市は10区ごとに計算しており、合計は188となっている。

2020年の総人口を100とした時の
2030、2040、2050年の市町村の総人口指数

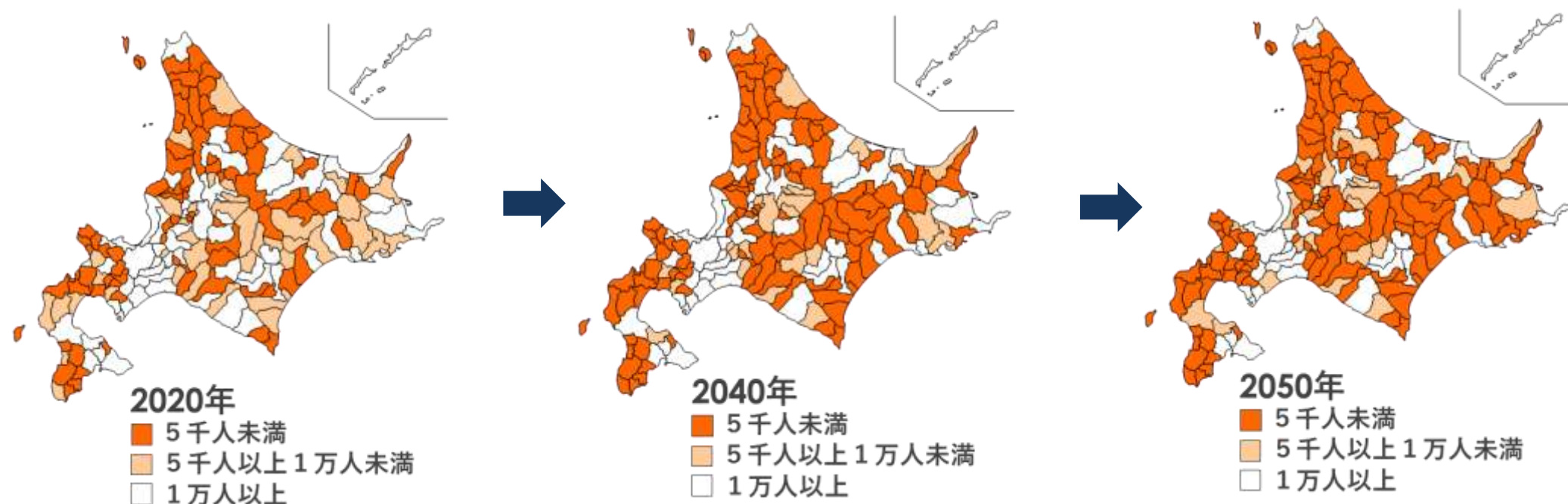


人口規模別の市町村数、推移

● 人口規模が5千人未満となる市町村数は2020年に84であったが、2050年には122になるとされている。

	市町村の人口規模					合 計
	10万人～	3万人 ～10万人	1万人 ～3万人	5千人 ～1万人	～5千人	
2020年	18(9.6%)	13(6.9%)	33(17.5%)	40(21.3%)	84(44.7%)	188
2040年	15(8.0%)	12(6.4%)	27(14.4%)	22(11.7%)	112(59.5%)	188
2050年	11(5.9%)	14(7.4%)	18(9.6%)	23(12.2%)	122(64.9%)	188

注) 北海道は179市町村で構成されているが、札幌市は10区ごとに計算しており、合計は188となっている。



人口減少段階別・人口規模別の市町村数の状況

- 道内の市町村は、比較的規模の大きい市町村を中心に1割程度が「第1段階」、1割弱が「第2段階」、約8割が「第3段階」となっている。
- 小規模な市町村を中心に第3段階が多くなっていることから、人口規模が小さい市町村ほど人口減少がさらに進行していくと見込まれる。

【2020年→2050年】

第1段階：「高齢者人口」 <u>増加</u>	「年少人口」「生産年齢人口」減少
第2段階：「高齢者人口」 <u>維持・微減</u> (0~10%)	「年少人口」「生産年齢人口」減少
第3段階：「高齢者人口」 <u>減少</u> (11%以上)	「年少人口」「生産年齢人口」減少

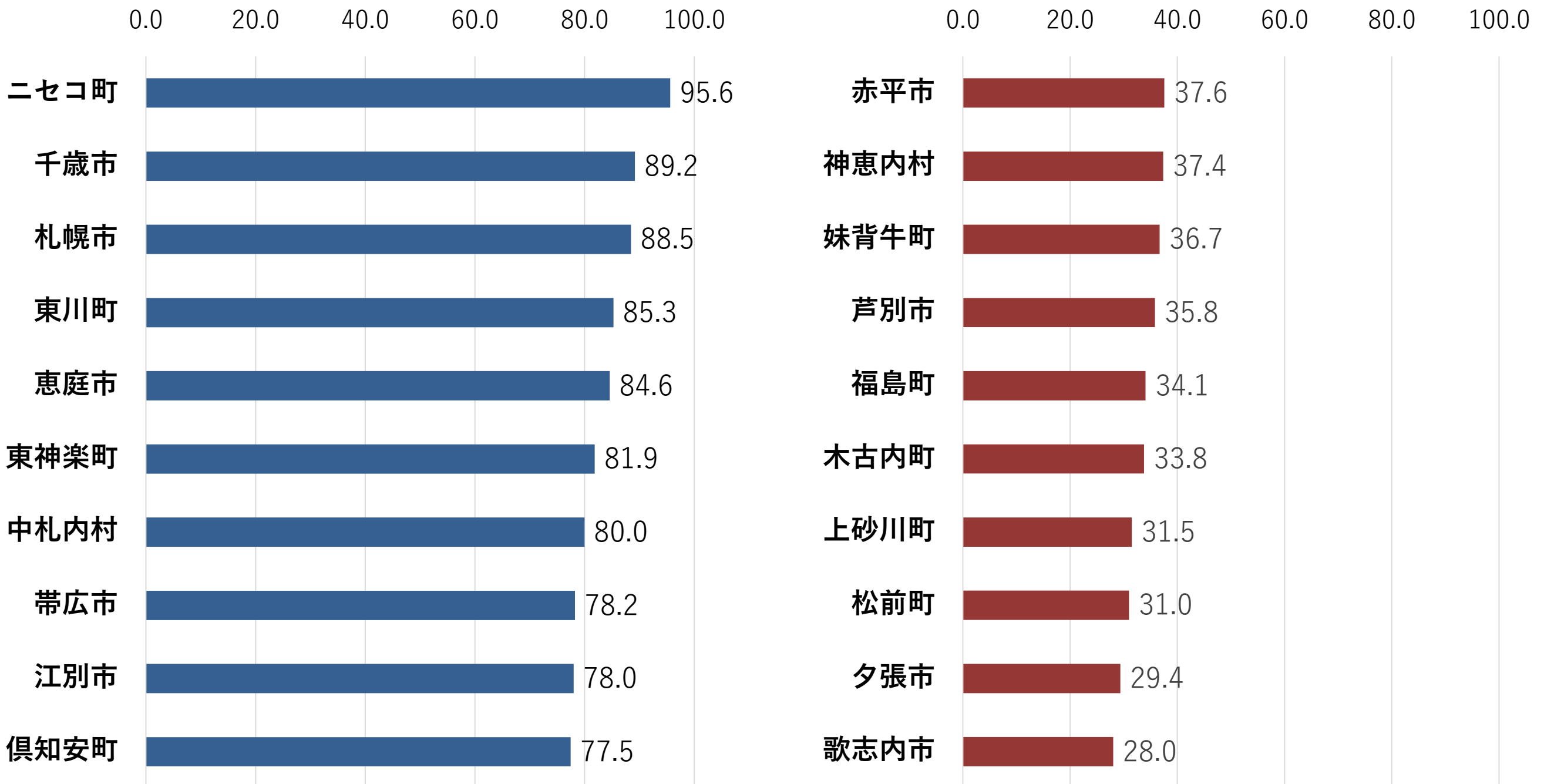
	市町村の人口規模 (2020年)					合 計
	10万人～	3万人 ～10万人	1万人 ～3万人	5千人 ～1万人	～5千人	
第1段階	12(66.7%)	3(23.1%)	4(12.1%)	2(5.0%)	3(3.6%)	24(12.8%)
第2段階	3(16.7%)	3(23.1%)	3(9.1%)	2(5.0%)	3(3.6%)	14(7.4%)
第3段階	3(16.7%)	7(53.8%)	26(78.8%)	36(90.0%)	78(92.9%)	150(79.8%)
合 計	18(100.0%)	13(100.0%)	33(100.0%)	40(100.0%)	84(100.0%)	188(100.0%)

注) 北海道は179市町村で構成されているが、札幌市は10区ごとに計算しており、合計は188となっている。

国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口 (令和5年推計)」

2020年を100とした場合の2050年の総人口（上位・下位10市町村）

- 外国人や移住者の増加、観光、農業などの基幹産業、都市周辺といった特徴のある自治体が2050年の人口推計と比較して減少が抑えられている。
- 歌志内市や夕張市では2050年には2020年の人口から70%以上減少するとされている。



国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口（令和5年推計）」